

第5学年 体育科学習指導案

令和3年11月26日（金）

授業者 T1 山中 卓
T2 竹中 一恵
T3 宮脇 舞子

1 単元名 大脱出 ～想像を膨らませ、思いのままに表現しよう～

2 授業づくりの構想

(1) 運動の持つ特性

表現運動は、自己の心身を解き放して、リズムやイメージの世界に没入してなりきって踊ることが楽しい運動であり、互いのよさを生かし合って仲間と交流して表現する楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

高学年の表現運動では、激しい感じの題材や群れが生きる題材を簡単なひとまとまりの動きで表現する。友達と協働し、体全体を動かしながら自分達の表したい感じや場面を中心に、変化のある動きをつなげて「はじめと終わり」を付けた動きを創りだす。

表現運動での、心を解き放ち体全体を動かす経験を通して、児童はイメージしたことを表現できる豊かな表現力を身に付けることができる。また、素早い動きやゆったりとした動きなどを組み合わせることで体の調整力を高めることが期待できる。

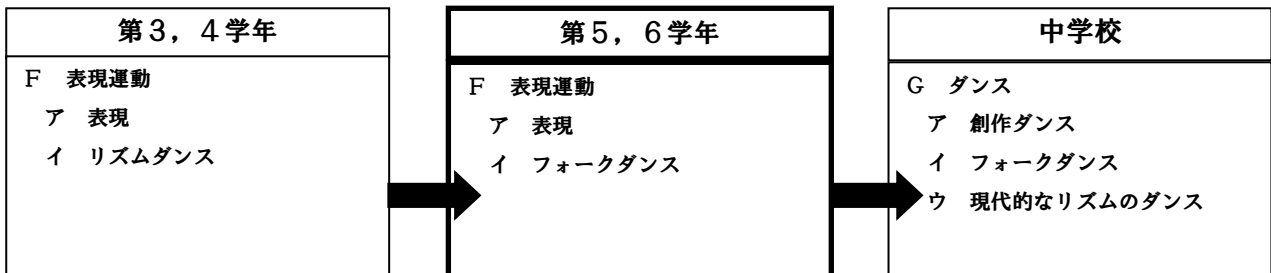
(2) 児童の実態

本学年の児童は前年度、学校行事である運動会で伝統的な踊りであるソーラン節とリズムダンスに取り組んだ。決められたリズムや振り付けを音楽に合わせて全員が楽しみながら活動に取り組むことができた一方、今までの体育学習で、今回の表現運動のような創作的な活動を行ったことはない。

事前に実施したアンケートでは、「人前で踊ったり表現したりすることが好き」と回答した児童は87％である。一方、「自分で表現する動きを創ることが好きである」と回答した児童は12％であった。その理由としては、「何をどう表現すればいいかわからないから」「人前で目立つことをすることが恥ずかしいから」などがよく挙げられた。

以上のことから、人前で表現活動を行うことに対する心ほぐしの時間を確保したり、仲間と共に学びを振り返り、認め合ったりする時間を十分に充実させる必要があると考える。

(3) 運動（学習内容）の系統性



(4) 単元の目標

【知識及び技能】

表現運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え、表したい感じやイメージをひと流れの動きで即興的に表現したり、グループで簡単なひとまとまりの動きにして表現したりすることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

自己やグループの課題の解決に向けて、表したい表現や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

表現運動に積極的に取り組み、互いのよさを認め合い助け合って踊ったり、場の安全に気を配ったりすることができるようにする。

(5) 学びへの働きかけ（指導の意図）

○単元構成の意図

本学習では、単元名を「大脱出」と設定した。はげしい感じの題材を扱う本単元では、児童は何かから必死に大脱出する様をひとまとまりの動きにして表現運動を行う。1時間目のオリエンテーションでは、「大脱出」という言葉から子ども達が連想することを「イメージバスケット」として、ワークシートに自由に書き込ませる。また、それらを後述のイメージカルタにすることで、動きのイメージを膨らませるヒントとして、2時間目以降の学習に活用していく。2時間目以降の学習では、教師が意図して示す題材に取り組むことで「4つのくずし」の習得をねらうと共に、ひと流れの動きで即興的に表現する楽しさを十分に経験させたい。

単元後半2時間では、単元前半で行った題材の中から自分達が気に入った動きをグループ毎にピックアップし、「はじめ」と「おわり」をつけた簡単なひとまとまりの動きにして表現させていく。最後の発表会では、グループ毎に創作した「大脱出」の様子を見せ合い、相互評価を行う。創作活動が主となる本単元を通して、友達と協力して何かを完成させることの素晴らしさや、児童一人一人の持ち味や自分らしさの表現の違いに気付かせたい。

○なりきり加茂っ子タイム

準備運動として毎授業のスタートに、「ダンスウォーミングアップ」と風船や新聞紙などの道具を使った「なりきりごっこ」を行う。ダンスウォーミングアップでは、8ビートのリズムに乗り、リーダーに合わせてダンスをしながら体育館を自由に動き回る。そして、教師の太鼓の合図に合わせてチームでポーズを取ってピタッと止まる。児童は友達のまねをしながら「歩く」という動作にのせて手や足をリズムミカルに動かす。表現をすることに抵抗のある児童も、友達と一緒に歩きながら自然に体を動かすこの活動を通して、楽しみながら学習に向かう姿勢を持つことを期待したい。また、なりきりごっこでは、教師や友達が示すものになりきって動く。後に意識して行う「4つのくずし」の入り口学習として、ダイナミックに表現することの良さに気付いたり、興味を持てたりするような雰囲気づくりを行いたい。

○活動①－A【教師の口伴奏による表現活動】

4つのくずしの習得を目指し、活動①では、予め示された題材について、教師の口伴奏を元に表現活動を行う。後に児童が創作活動として取り組む「大脱出」につながるような「ピンチ」を感じる場面を全員で楽しみながら行う。また、4つのくずしのうち、その日特に強調する動きを児童が意識できるような「よい動き見付け」を行い、めあての言葉を具体的動作へとつなげていきたい。

○活動①－B【イメージカルタを利用した表現活動】

前述のイメージバスケットを元に作成された「イメージカルタ」は、活動②で活用する。イメージカルタは「忍者の潜入」「ジャングル探検」などの主たる題材が書き込んであるAカードと、「風」や「火」や「天災」などのA題材に変化をもたらす外的要素となるBカードに分ける。児童はAカード担当と、Bカード担当に分かれ、お題になりきって即興的な表現活動を行いながら近づいていく。A・Bそれぞれの役割を担う児童が互いに干渉し合い、影響し合うような動きを行うことで、即興的な表現の工夫やひと流れの動きのイメージをつかませたい。

(6) 単元の「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方

関わり	高学年	具体的な活動・姿
する	・いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え、表したい感じやイメージをひと流れの動きで即興的に表現したり、グループで簡単なひとまとまりの動きにして表現したりする。〈知識及び技能ア〉 ・課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた見合いや交流の仕方などを選ぶ。〈思考力、判断力、表現力等ア〉 ・表したい感じやイメージを表現する運動に積極的に取り組む。〈学びに向かう力、人間性等ア〉	・ダンスウォーミングアップに楽しく取り組む。 ・ペアの友達やグループの仲間と一緒に表したい感じを即興的に表現している。 ・グループで決めた題材について、めあてに沿った工夫を使いながらひとまとまりの動きで表している。
みる	・自己やグループの課題を見付ける。〈思考力、判断力、表現力等ア〉	・自分達の動きを確認し、改善点を見付ける。 ・一人一人の動きや表現の違いに着目しながら、友達の動きを見る。
支える	・課題解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝える。〈思考力、判断力、表現力等イ〉 ・表現に取り組む際に、互いの動きや考えのよさを認め合う。〈学びに向かう力、人間性等イ〉 ・表現にグループで取り組む際に、仲間と助け合う。〈学びに向かう力、人間性等ウ〉 ・表現を行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たす。〈学びに向かう力、人間性等エ〉	・自分の班の友達と話し合い、互いの良さや違いを認め合いながら創作活動を行う。 ・一人で表しきれない表現を、グループの友達と手分けして表そうとする。 ・近くの友達とぶつからないように、場の安全に気を付けて踊る。 ・兄弟班の発表がより良くなるよう、練習の様子を見てアドバイスを送る。
知る	・表現では、その行い方を理解する。〈知識及び技能ア〉	・4つのくずしや友達の動きの工夫を捉え、体全体を使った表現の仕方を知る。 ・動画や画像を見ることで、激しく燃える火や強風などの「表したい題材」についての動きの様子を知る。

(7) 単元の流れ及び評価の計画

		1	2	3	4（本時）	5	6
主なねらい		学習の目標と進め方を知る	「大脱出」のいろいろなイメージを「ひと流れの動き」で即興的に表現する。			気に入った「大脱出」のイメージを簡単な「ひとまとまりの動き」にして表現する。	
核となる学習活動		「大脱出」のイメージをつかむ	体のくずし	リズムのくずし	空間のくずし	「はじめ」と「終わり」を加えた「大脱出」づくりと発表	
			人間関係のくずし				
学習内容		なりきり加茂っ子タイム ・割り箸 ・縄跳び、風船 ・新聞紙（個人） ・新聞紙（集団） ・ぞうきん ・ボール					
		○オリエンテーション ・「大脱出」のイメージを出し合う ・イメージカルタを元に動いてみる	活動①-A 教師の口伴奏での表現活動 ジャングルからの脱出 難破船からの脱出 アジトからの脱出			活動②「大脱出」をひとまとまりにした表現活動 ・グループの友達と大脱出の場面を決め、「はじめ」と「終わり」を加えたストーリーを創る ・一番気に入った場面の友達とグループを作り、イメージが伝わるような工夫を加えて表現する。	
			活動①-B イメージカルタを使っでの表現活動 A カード 主たる題材 例：アジトへ潜入・迷路を冒険・牢屋から脱獄 B カード A に影響を与える外的要因 例：火・風・水・地震・畏・敵			○発表会	
評価の計画	知	①	②	②	③		④
	思		②	②		①	
	態	③				②	①

具体的な評価規準	知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	①表現運動の行い方を理解している。 ②いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉えることができる。 ③表したい感じやイメージをひと流れの動きで即興的に表現することができる。 ④グループで簡単なひとまとまりの動きにして表現することができる。	①自己やグループの課題に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫している。 ②自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	①表現運動に積極的に取り組もうとしている。 ②互いのよさを認め合い助け合って踊ろうとしている。 ③場の安全に気を配ろうとしている。